

六九八新聞館内第四号



公益財団法人
草津市コミュニティ事業団
ロクハ荘



人生ちよつと・いい話！

●「旦那の分も丸しました」奥様は必ずこう言って入館されます。今回インタビューに応じて頂いたのは六九八新聞発行のきつかけとなったTさんです。無理を言って夫婦から話を聞くことが出来ました。●ご主人の出身は守山、奥様は満州で生まれ、東近江で育ちました。旦那さん七十七歳奥様七十六歳、共に六月生まれの素晴らしいご夫妻です。●今回はお二人が出会ったところからのお話になります。昭和三十六年度の職員として同期に入庁した仲間たちと遊ぶうちに廻りは次々と結婚しご夫婦だけが独身のまま・・・仲間から「二人結婚したら？」互いに気になっていたと思いますが、インタビューではうやむやに返答されま

お父さん練習一緒に走ってと始めたジョギングは今も続いているんです」とニコツとされる目が可愛いです。●結婚当時から住み始めた栗東で息子さんのマラソンの練習に付きあつてから四十数年間、この草津の地でもジョギングを継続されているって「凄い」の一言です。ちなみに奥様は読書・水彩画・卓球・ピアノ等多く趣味だそうです。●「振り返って一番嬉しかったことは？」とお聞きすると、「健康でこれまで来られたことかな？ともするとこの年頃になると亡くなっている方（自身の兄弟五人の中で存命は私と姉の二人）もいる中で夫婦が元気でロクハ荘に來られているのが嬉しいです」●奥様はこう語り始めました「旦那が県職で二十年目になった時全国から研修で東京に二十名が集まった時、折角だから、この仲間と毎年集まりを持とうと会が発足したんです」●その第一回目の集まりが滋賀に決まった際、幹事として一生懸命準備されていたご主人がある日「あなたも一緒にきたら」とやさしく言ってくれたそうです。●関係のない自分

がまさか・・・自分の事をいつも考えていてくれてた夫がそこにいたと・・・考える嬉しく、この人と一緒になつて良かった」としみじみ思つたそうです。また「夫を尊敬しています」とも・・・夫を尊敬出来るって素晴らしいです。そんなご夫婦が見つめあうとき時「お互い健康でいられてありがたう」って言っているように感じました。●「胃が痛い」息子さんが中学一年の時でした。中学生になり日頃の疲れとストレスからか胃をほぼ全摘出になるほどの大手術を受けることになりました。●当時ご主人はあるプロジェクトの為に毎日遅くまでの仕事が続いていました。担当医から「覚悟してください」と言われるほどの大手術、長時間の手術を終えた朝は大雪だったそうです。●一週間意識が無い中「生きたい」との息子さんの思いが回復に向かわせます。その後、管理栄養士の資格をもっていた奥様の食事の献立は息子さんをより元気にしていきます。お二人にとつてその時がどれ程辛かったか推し量れません●「元気が限り地元を大事にし、そこで何らかの役に立ちたい」「私は主人がいるので幸せです。」と奥様が言います。●毎日笑顔で「おはよう」と言い、健康で有る事に感謝し、それぞれが尊敬しあうそんなご夫婦に出会えた今回でした。

（取材・記事 榎本）

◆編集後記◆
「私毎回靴の紐をほどき結び直すんです。腰を曲げ、手先の感覚が鈍らないように！それを見ていた友達が倣ってくれた時嬉しかった」と事務所の受付で笑顔で話したことが「ちよつといい話」になり、新聞になりました。

「朝何時も通りロクハ公園の池の周りと公園内を散歩する合計二キロの道のり、これが私の健康法」前回登場頂いたKさんがやっていることです。

まさに今日のインタビューもそうでした。ジョギングを四十数年、靴の紐をほどき、結ぶ！それを毎日継続するそれは別に誰かから何かを得るためにしている事ではありません。しかしその結果得ているものは「健康」というおおきな財産になっています。●「継続」していますか？

追記 Tさん、結婚五十年（金婚式）おめでとうございます。

編集スタッフ一同

